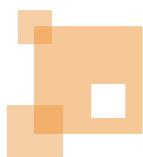


トピックス



中医協意見陳述「手応え有り」 産業ビジョン作成が奏功

日本ジェネリック製薬協会（JGA）の吉田逸郎会長は、9月の中医協薬価専門部会の意見陳述後に会見を開き、今までの意見陳述とは異なり手応えがあったことを記者団に明かした。背景にはJGAが今年5月に「ジェネリック医薬品産業ビジョン」を発表したことで業界が持つ現状認識と将来のビジョンに中医協で一定の理解が進んだことがある。

「ポスト80%時代」を見据え後発品企業の進むべき道を描いた産業ビジョンでは、先発品の特許切れをめぐって多くのメーカーが後発品を発売するビジネスモデルをこのまま続けていくと、全てのメーカーが共倒れしかねないとして、国内で後発品を扱う企業に集約化を呼び掛けている。

意見陳述で診療側の安部好弘委員（日本薬剤師会常務理事）が、後発品企業の集約化や大型化にどう取り組むのかと質問したのに対し、吉田会長は産業ビジョンを念頭に「業界内では統合・再編の動きが出ている。水面下では、さらに動きがあると思う。企業数が減るのは必然だろう」と述べ、ビジョンで提言した再編の動きがすでに出ているとした。

今村聡委員（日本医師会副会長）も「早期に後発品企業の集約化・大型化をお願いしたい」と発言。これまでの意見陳述では薬価引き下げを要求する意見が委員から相次いでいたが、今回は産業ビジョンに賛同する委員の発言で議論を終えることができた。

産業ビジョンでは▽後発品大手による「総合型」▽他社の後発品や先発品、OTCの製造に特化する「受託型」▽小児用やがんなどに特化する「領域型」▽新剤形や新投与経路の改良を得意とする「製剤工夫型」一の4形態に集約化されると予想。将来にわたって医薬品を供給する努力を続けた企業が最終的に残るという改革案だ。

◇薬価要望実現は別物

薬価専門部会で産業ビジョンについては、委員の賛同を得ることができた。しかし薬価制度改革の要望は別物だ。来年度予算の編成過程で後発品の薬価引き下げによって財源を捻出する動きが出てくるかも知れない。

▽後発品薬価の価格帯集約をやめ銘柄別の薬価に戻すこと▽中間年改定の対象を価格乖離の大きい品目に限定する▽初収載の後発品薬価の現行水準の維持一のJGAの要望が

どこまでかなえられるか。

産業ビジョンの実現のためには現行の後発品算定ルールを維持する必要があることを理詰め府与党、中医協に説明し続けていくほかはない。

※「トピックス」は、業界紙の記者に「最近のジェネリックに関わる動向」について連載いただいております。